

◆ 令和4年度の実施予定

再生工事

- ◆ 植栽、ササ刈りの継続
- ◆ 育苗（播種・定植～管理～仮植）の継続
- ◆ 育苗ノウハウの整理

調査事業等

- ◆ 稚樹、林床植生等の生育状況調査
 - ・ 再生過程の追跡調査
 - ・ エゾシカによる影響調査、エゾシカ対策事業との連携
 - ・ 達古武川上流部の外来種調査
- ◆ 環境学習プログラムの実践

このような意見交換が行われました

- 今年度は樹木成長の平均が極端に低くなっていますが、これはほぼエゾシカの影響によるものなのでしょう。
- 植樹予定地では計画の91%の植樹が進み、植栽終了の目処がついたと思います。次のステップとして、上層部を占めるカラマツ林を広葉樹に交代させていく方法を検討してはどうでしょうか。

- エゾシカに食べられた跡のある樹木が50%近くあるため、エゾシカによる影響と考えています。
- 植栽木のモニタリングなどを継続しつつ、今後のことを検討していきたいと考えています。

委員長 委員 事務局

釧路湿原自然再生協議会 森林再生小委員会

環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所
林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林ふれあい推進センター

議事録や会議資料などはこちら



市民参加のイベントを実施しています

● 釧路湿原 森林ふれあい推進センター



● 再生普及行動計画オフィス 「ワンダグリンド・プロジェクト」



雷別ドングリ倶楽部 保護管準備の様子



雷別ドングリ倶楽部 次年度検討会の様子



達古武地域でのイベントの様子



達古武地域でのイベントの様子

第21回森林再生小委員会 [出席者名簿(敬称略、五十音順)]

個人 [3名]

- 神田 房行 [北方環境研究所 所長(元北海道教育大学副学長)]
- 杉澤 拓男
- 中村 太士 [北海道大学大学院 農学研究院 教授]

関係行政機関 [5機関/6名]

- 国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [釧路河川事務所長 三浦 克真]
- 環境省 釧路自然環境事務所 [国立公園企画官 松尾 浩司]
- 林野庁 北海道森林管理局 [根釧西部森林管理署長 相澤 伴軌]
- 林野庁 北海道森林管理局 [技術普及課企画官 佐藤 省治]
- 釧路市 [市民環境部 環境保全課長補佐 元岡 直子]
- 鶴居村 [産業振興課林政係長 松尾 昭夫]

団体 [6団体/6名]

- 釧路国際ウェットランドセンター [事務局長 菊地 義勝]
- 釧路湿原国立公園連絡協議会 [事務局次長 元岡 直子]
- 釧路造園建設業協会 [会長 吉田 英司]
- さっぽろ自然調査館 [代表 渡辺 修]
- 標茶西地区農地・水保全隊 [隊長 佐久間 三男]
- 特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所 [研究員 小林 恒平]

～ 委員を募集しています ～

- 毎年10月中旬～11月初旬に釧路湿原自然再生協議会の委員を募集しています。
- どなたでも参加でき、興味のある小委員会に参加いただけます。



釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

TEL (0154) 23-1353
FAX (0154) 24-6839

資料の公開方法

各委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。

<http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend0000003ppq.html>

ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。電話・FAXにて事務局までご連絡ください。

釧路湿原 自然再生協議会

森林再生小委員会

No. 21

ニュースレター

編集・発行: 釧路湿原自然再生協議会 運営事務局 発行日: 令和4年2月10日

令和3年11月12日(金)「第21回 森林再生小委員会」が釧路地方合同庁舎5階 共用第1会議室で開催されました。

■ 開催概要

小委員会には、15名(個人3名、6団体6名、関係行政機関5機関6名)が出席しました。(コロナウイルス感染拡大状況により一般の方の傍聴は中止させていただいています。)

今回は、「雷別地区自然再生事業の実施状況」および「達古武地域自然再生事業の実施状況」について事務局より報告があり、それぞれに対する意見交換が行われました。

森林再生小委員会とは



森林再生小委員会は、釧路湿原自然再生協議会の7つある小委員会のひとつです。毎年ほぼ1回の会議を開催し、釧路湿原流域における森林の再生に関わる以下のような施策について検討をしています。

- ・ 湿原への土砂の流入を軽減し、水環境を保全するために、流域内の森林を再生する施策
- ・ 湿原や河川ともつながりを持つ、地域本来の豊かな森林生態系を再生する施策

【構成員】52名(個人20名、20団体、関係行政機関8機関、オブザーバー4団体)
(令和3年12月末現在)

森林再生の取り組み



釧路湿原とその流域

雷別地区(標茶町)



立ち枯れしたトドマツ

雷別地区国有林(293林班)はシラルトロ沼の上流域に位置しています。平成12年に気象害で人工林のトドマツが枯れてしまい、水土保持機能が低くなってしまいました。

そこで、この跡地において、シラルトロ沼上流部の森林の水土保持機能を高め、シラルトロ沼や上流河川、湿原を保全することを目的に、郷土樹種である広葉樹主体の森林を再生する取り組みを行っています。

達古武地区(釧路町)



達古武地区内のカラマツ人工林

達古武地区は釧路湿原東部に位置しています。達古武湖を中心に、湿原や河川、丘陵林の生態系が小さくまとまり、釧路湿原の生態系の縮小版とも言えます。

その中のカラマツ人工林において、人工林を地域本来の落葉広葉樹林へ再生する取り組みを行っています。

◆ 令和3年度の取り組み

実施内容 以下の対策等を実施しました。

1. ササの刈りはらい

広葉樹を植栽するため、人力によるササの刈払いを行いました。

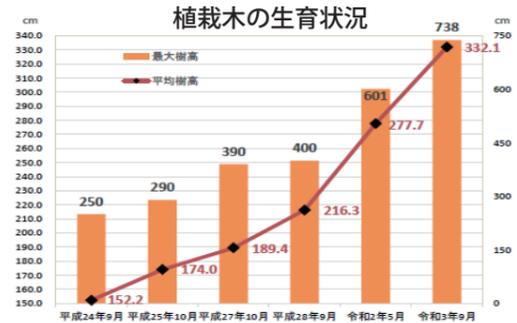
2. 広葉樹の植栽と食害への対策

- ・ミズナラ、ハルニレ、ヤチダモ、カツラの4種類の樹木を、合計で400本植栽しました。
- ・ノウサギ等の野生生物の食害から保護するため、植栽木を保護管(ツリーシェルター)※で覆いました。

3. 植栽木の生育状況

- ・平成21年に植樹した100本の植栽木の内、保護管で覆った50本について樹高の調査をしています。
- ・保護管の撤去が必要な場合は調査後に撤去していますが、今回は対象となる樹木はありませんでした。
- ・右図の「植栽木の生育状況」にあるように、樹木は順調に生育しており、今後の成長が期待できます。

※: 保護管(ツリーシェルター): 樹木を覆う筒状のもの。エゾユキウサギやエゾシカ等の食害から守るため、植栽木に装着します。



◆ 令和4年度の事業予定等

事業予定

- ・広葉樹を植栽するため、ササの刈払いを継続して行う予定です。
- ・植栽時には保護管を装着する予定です。

今後の検討課題

- ・保護管はプラスチック製のため、環境に配慮する必要があります。
- ・植栽木が保護管の高さを越えた場合の早期撤去や、その後のエゾシカによる影響のモニタリングを検討しています。
- ・保護管の使用可能期間のモニタリングや、リサイクル・再利用についても検討します。

このような意見交換が行われました

保護管を付けた樹木と付けていない樹木とでは、成長に違いはありますか。

平成21年に植栽し保護管を付けた樹木は、7割程度が生存していますが、付けていなかった樹木は野生動物の食害等により、大半が枯れてしまいました。保護管の重要性を改めて認識しました。

保護管は、樹木の成長に伴って外れるのを待つのでしょうか。それとも回収するのでしょうか。

しっかりと装着するため樹木が成長しても簡単には外れません。材質がプラスチックのため自然に還らないことから、人の手で取り外し回収します。

委員 事務局

雷別ドングリ倶楽部の会員を募集中です

植樹や保護管(ツリーシェルター)の被覆等、地域住民のみなさんが参加できるボランティア活動があります。雷別ドングリ倶楽部の会員は、毎年4月に募集しています。

くわしくはこちら「雷別ドングリ倶楽部」



「雷別地区自然再生事業実施計画」の特徴(平成19年9月)

- 広葉樹の森林へ再生するため、様々なことを試してきました。
 - ・タネを落とす樹木が多くある箇所は、自然の力に任せる
 - ・タネを落とす樹木が少ない箇所は、広葉樹の植栽を検討・導入する
 - ・笹が多く自然の力が至らない箇所は笹を除去したうえで、広葉樹の植栽を検討・導入する
 - ・植栽木がエゾユキウサギやエゾシカ等に食べられないよう、保護管(ツリーシェルター)や防鹿柵を守る



くわしくはこちら「雷別地区自然再生事業実施計画」

◆ 令和3年度の取り組み

公表資料の作成 以下の資料を作成しました。

- ・令和6年までの計画を事業実施計画に追記しました。追記を行った事業実施計画書を湿原データセンターのホームページ上で公表しました。
- ・『釧路湿原達古武地域 自然林再生の取り組みの紹介』を作成しました。これまでの取り組みをまとめた概要版冊子を作成しました。

再生工事等 以下の工事を実施しました。

- ◆ 育苗(播種・定植～管理～仮植)
- ◆ 苗木の植栽(ミズナラ、ダケカンバ、アオダモ等、約1万4千本・3.8ha)
- ◆ ササ刈り(地拵え、下刈り)
- ◆ 防鹿柵の巡視・補修

調査結果 以下の調査を実施しました。

1. 防鹿柵内における植栽木の成長過程の追跡調査

苗木は順調に成長しており、ダケカンバでは平均樹高が4mを超えています。個体間の差も大きくなっています。⇒成長状況を把握し、下刈りや防鹿柵設置が必要な年数等について検討していきます。

2. エゾシカによる被食状況調査

稚樹 防鹿柵外の稚樹は樹高成長の平均が0cmに近く、エゾシカによる被食の影響は昨年より強くなっていると考えられます。一方で被食の影響はあるものの成長している稚樹もあります。

林床植物 防鹿柵外の林床植物は、種類によってエゾシカの影響に違いがありました。チシマアザミやエゾノヨロイグサでは食痕が多くみられて開花数は年々減少していました。

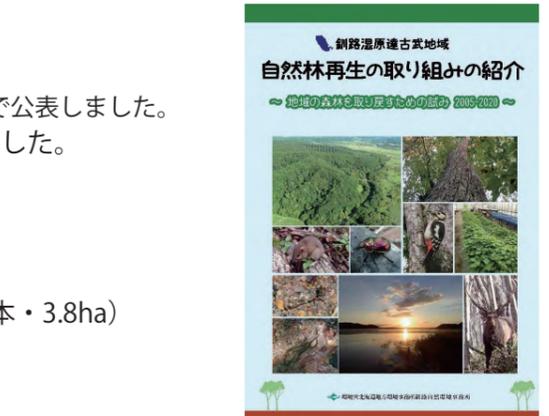
生息状況 事業地内に計6台の自動撮影カメラを設置して自動撮影調査を行いました。エゾシカは湖岸に近い場所で多いことや秋季以降に多くなることがわかりました。



⇒地域・季節別の利用状況を把握し、エゾシカ対策事業との連携を図ります。

環境学習 以下のプログラムを実施しました。(◇:実施予定)

- ◆ 沢の生き物・森の昆虫調査(釧路湖陵高校1年生を対象): 7月
- ◆ 沢の生き物・森の野ネズミの観察(小学生を対象): 10月
- ◆ 森林調査(高校生・関心のある方を対象): 10月
- ◇ 冬の調査体験会(一般の方を対象): 令和4年2月実施予定



『釧路湿原達古武地域 自然林再生の取り組みの紹介』

3. 達古武川上流部のウチダザリガニ調査

- ・令和2年までの達古武川上流部の調査において、ウチダザリガニ(特定外来生物)の生息が確認されました。
- ・確認された場所の周辺で捕獲調査を行い、本種を48個体捕獲しました。
- ・隣接する場所ではニホンザリガニ(在来種)が確認されました。

⇒在来種への影響が懸念されることから、今後は、さらに上流側での調査を行い、在来種分布との関係の把握や、調査を兼ねた捕獲により個体数の抑制をめざします。



「達古武地域自然再生事業実施計画」の特徴(平成18年2月)

- ◆ 残っている良好な自然の保全を優先し、自然の回復力にゆだねた自然林の再生を目指しています。
- ◆ 継続的にモニタリングを行い、再生のために人の手助けが必要と判断された場合、以下のことを検討・実施しています。
 - ・発芽、稚樹の成長を促進するため、必要な場所では地がきを行ったり、ササを取り除く
 - ・周辺の森林で採れた種子を育てて苗木をつくり、その苗木を植える
 - ・稚樹がエゾシカに食べられないように柵をつくる
 - ・広葉樹が大きくなったら、順次カラマツを伐採し、樹種の交代を促す



くわしくはこちら「達古武地域自然再生事業実施計画」